

山崎長郎●

我々歯科医は、忙殺されている日常臨床において1本の歯に対する支台歯形成を基本から考えて形成をしているだろうか？

おそらく多くの歯科医は、装着されるであろう修復物の形態・維持力・咬合等々を含めた理想型をイメージ出来ないまま支台歯形成を行っているかも知れない。

本書は、そのような臨床医にもう一度支台歯形成とは何か、原点に立ち戻り、1歯あるいは数歯を細部にわたり、様々な角度から検討を加えた成書である。

本書の読み方は自由であるが、六つの章から構成され、たいへん興味深い各章となっている。

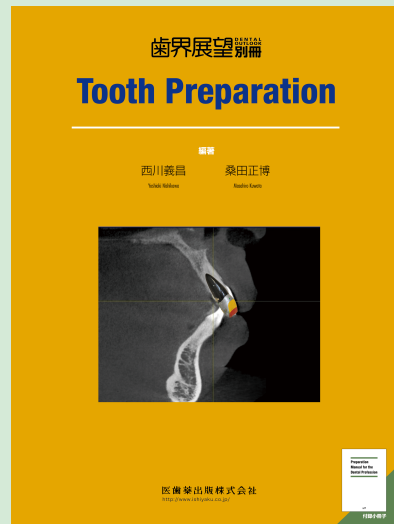
Chapter1は、本書の骨子である支台歯形成の基本的な8つのキーワードについて解説されている。このキーワードは、機能・生物学を包含した支台歯形成の必要条件であり、決して忘れてはならない重要事項である。この章を理解しなければ、次章へは進めないほど、著者の述べたい事項が集約されている。

Chapter2は、一言で表現すれば歯の解剖学である。CT画像を用いて、各々の歯の植立角度、対向関係について呈示している。また、スリーブブレンコンセプトの根拠となる歯の各面の基準角度についても網羅されている。

Chapter3からは、実際の臨床における支台歯形成の削除量、テーパー、長さ、必要となる器具等について、それぞれ説明がなされている。また、形成は最終補綴物が製作しやすく、長期的に維持するものでなくてはならない故、技工操作との連携にも言及していることは興味深い。

Chapter4・5は、臼歯部・前歯部フルクラウンの詳細な形成について、ステップバイステップで最終補綴物のバイオリジックカントウアをイメージできる様、注意点が配慮された内容となっている。

歯の解剖学的所見と形成をうまく合致させ、秀逸なものとなっている。



月刊「歯界展望」別冊

Tooth Preparation

西川義昌・桑田正博 編著

A4判変型 120頁 定価6,090円(本体5,800円+税5%)

医歯薬出版株式会社刊

Chapter6では、Chapter1～5の要約を模型上でよりわかりやすく解説している。

特に、バーの角度と実際の支台歯形成面がどのような形態になっているかが確認できるよう、わかりやすい模型写真が呈示されている。

以上、6章からなる構成で、各々生物学的・機能的、そして歯科技工士の観点から詳細な解説がなされている。

我々歯科医は単に歯の形成を短絡的に行うのではなく、その歯が解剖学的にどのような特徴を持ち合わせているかを考慮し、可及的に硬組織の削除を必要最小限に抑え、理論と合致した支台歯形成を習得しなければならない。

本書は正にそれを実践するには最適な成書である。また、各臨床例が秀逸で素晴らしいことを最後に付け加えたい。

(やまぎまさお 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-1-12 パシフィックスクエア4階 原宿デンタルオフィス Tel: 03-3400-9405)